

第 n 問

次の日本の中世に関する記述のうち、明らかに誤っているものを一つ選べ。

- (1) 応仁の乱では、鉄砲が使用されるなど激しい戦闘が繰り広げられ、京都は戦火に見舞われ多くの寺社が焼失した。
- (2) 川中島の戦いでは、甲斐国を治めていた武田信玄と、越後国を治めていた上杉謙信が、五度にわたり戦ったがいずれも決着はつかなかった。
- (3) 桶狭間の戦いは、上洛を目指す今川義元と尾張国を治めていた織田信長による合戦で、松平元康（後の徳川家康）は今川軍の一員として参戦していた。
- (4) 本能寺の変の直後、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）は備中の国から「中国大返し」を行い、わずか十日ほどで明智光秀軍と戦い、勝利を収めた。

作問者：negi_0613__

解答

正解: (1) 解説:

- (1) 誤り。鉄砲の伝来は 1543 年、応仁の乱が始まったのは 1467 年とされており、この記述は間違いである。
- (2) 正しい。特に 4 回目の戦いは激戦であったとされている。
- (3) 正しい。松平元康は桶狭間の戦いの後、今川家から独立し、織田信長と同盟を結んだ。
- (4) 正しい。本能寺の変の際、羽柴秀吉は毛利家との戦争中であったが、備中高松城を水攻めにし降伏させることで「中国大返し」を行った。

余談: (4) に記述される戦いは山崎の戦いと言われており、その日付は 6/13。なんか見たことあるね。